

冬の寒さが身に染みる時期になってまいりました。子どもたちはそんな寒さにも負けず、元気に遊んで過ごしております。2学期もあっという間にすぎ終業式を迎えました。2学期が始まった当初よりそれぞれ成長を感じており、お友だち同士で何かあった際にも「私はこう思っていた」「こうしたらいいと思う」などと自分たちできちんとお話をする姿も見られてきております。



担任でも子どもたちの会話に耳を傾け見守りつつ、困って話をしてくれた際には全てを保育者が解決に向けてしまうのではなく、両方の話きちんと聞き子どもたちが自分で気付くような引き出しを作っていくようにしております。その成長が少しずつ見られ、自分たちでの解決も徐々にできるようになっております。

また、2月に行われる発表会に向け、徐々に練習を進めており、12月頭に子どもたちに演目となるオペレッタの絵本の読み聞かせをいたしました。子どもたちは自分で役の候補をあげその中から役が決まりました。少しずつではありますが、役ごとに歌を聞いて曲の雰囲気や歌詞に触れ3学期には、子どもたちと話し合いながら振り付けや動きを決めてまいります。



是非、発表会をお楽しみにしてください。

(年中組チーム担任 高山礼渚)

直前インフォメーション

○冬季休暇

12月21日(木)～1月8日(月)

※ 学園閉鎖期間 12月29日(金)～1月3日(水)

○始業式

1月9日(火) ネクタイ、リボン着用

持ち物:上履き・外履・着替え袋・冬休み日記

○連絡帳の検温について

3学期から連絡帳への毎日の検温記録は不要となります。お伝え事項がある方のみ連絡帳への記載をお願いいたします。

○短時間タイプのお迎え場所変更について

1月9日(火)より幼稚園降園時間(14時/11時30分)のお迎え場所が変更となります。

変更後:14時降園→玄関よりお入りいただき、「こぐま組保育室前」にて学年ごとにお引渡しします。

11時30分降園→玄関よりお入りいただき、「各保育室」にてお引き渡しします。

* 玄関はIDカードを入口左手にタッチしていただくと開錠できます。

* 靴箱の上のiPadにて打刻してください。

○自転車の交通ルールについて

公道での自転車事故や怪我、マナー違反が増えています。ヘルメットの着用、細い道やまがり角では減速し、事故に気を付けましょう。

参照:[「知ってる?守ってる?自転車利用の交通ルール」](#)



良いお年をお迎えください。



1月の目標は来月にお知らせいたします。

食育について

給食の際に子どもたちに伝えていることをご紹介します。

是非ご家庭でも行ってみてくださいね。



おせち料理について

【由来】

おせち料理は、もともと「今年も豊作でありますように」という祈りを込めて、神様に捧げていました。祝い肴には五穀豊穡、不老長寿、子孫繁栄といった新年に願うべき思いが込められていることから、おせちの必須料理となったのです。そして「今年も家族みんなが一年間、健康で幸せに暮らせますように」という強い願いが込められた縁起の良い料理です。元旦は、新たな年を加える特にめでたい日として、格別の祝いの節句とされ、お正月に食べるものをおせち料理とさすようになりました。

【基本】

おせち料理の基本には、「田作り」「数の子」「黒豆」の3品が基本とされています。

- ・ **田作り** →カタクチイワシの幼魚を乾燥させたものを炒め、調味料で味付けした料理です。
昔はイワシを田んぼの肥料にしていたことから「田作り」と呼ばれるようになりました。
豊作の願いが込められるようになったといえます。
- ・ **数の子** →ニシンの魚卵である数の子は、鮮やかな金色が特徴でコリコリとした食感を楽しめる料理です。「二人の親から大勢の子どもが生まれますように」といった子孫繁栄の願いが込められています。
- ・ **黒豆** →ツヤツヤとして甘い黒豆には「マメに働いて元気に過ごせますように」や「しわが寄るほど長生きできますように」など、勤勉や健康に関する願いが込められています。

【おせちの重箱】

おせち料理は、「めでたさが重なりますように」と願いが込められて、重箱に詰めて出されます。

現在のおせちの内容や詰め方などは、住む地域や生活、好みに合わせかたちが変わっています。

基本の三段重の詰め方、盛り付け方は一の重には、「祝い肴」と「口取り」を詰めます。二の重には、メインの料理となる「焼き物」や「酢の物」を詰めます。三の重には、山の幸を多く用いた「煮物」や筑前煮を詰めます。

お正月のお料理が楽しみです。

是非、ご家庭でも注目して楽しみながら食べてみてください。

12月の絵本

子どもたちが興味を持っている本絵本

先生たちのおすすめの絵本を紹介いたします！



・「くまのこのとしこし」

作：高橋和枝

出版社：講談社

12月も終わりに近づき、「もうすぐ来年がくるよ」とお母さんから教えてもらったくまのこ。来年のためにお部屋のお片付けや大掃除、お正月に向け飾り付けをしたり大忙し。来年はどのようにしていきましょう。新しい年を迎えるわくわくする気持ちを感じられるお話です。